日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の１　TEL &FAX　52-3097　　2015年８月２日（日）１５０６号

民報ゆうばり

「戦争法案」参院審議入り

党夕張総合後援会　署名・街頭宣伝

25日、日本共産党夕張総合後援会では、くまがい桂子市議とともに「戦争法案」撤回を求める街頭宣伝・署名・チラシの配布等を行いました。

◆　◆　◆

くまがい市議は街頭演説の中で、…安倍自公政権は、「戦争法案」を衆議院特別委員会と本会議でも、強行採決しました。日本共産党は、民意をふみにじった自民・公明の暴挙をきびしく糾弾し、廃案めざして力を尽くす決意です。

だれの子ども・若者も殺させない　日本中に「反対」響かせ廃案へ

立憲主義から独裁国家へ！

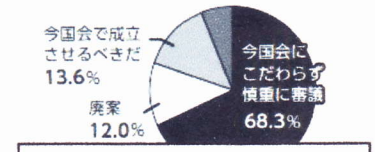
また、この法案は、自衛隊の海外派遣について、これまでの国会と内閣の見解を根本から変え、ほとんどの憲法学者が憲法に違反すると反対し、歴代の内閣法制局長官からも違憲と指摘されています。

このような法案が、一内閣の判断で、数の力で強行されるなら、憲法をはじめ、法の支配を原則とする日本の立憲主義が破壊されてしまいます。

8割の国民が成立に反対！

そのうえ、八割もの国民が今国会での成立に反対しています。

これでは日本は、民主主義の国でなく、独裁国家に変わってしまいます。



「時事通信」世論調査　6月

「採決は無効！法案は廃案に」

日本共産党は、「国のあり方」がかかっているこの強行採決に、法案への賛成、反対の立場を越えて、「採決無効、法案は一旦廃案に」の声をあげるよう、全国のみなさんに呼びかけます。

戦後の平和は9条と国民の世論と運動のたまもの

戦後70年、これまで一発も外国人に向けて銃弾を撃っていない、ひとりも殺し、殺されなかったのは、日米軍事同盟のおかげではなく、「世界に誇る憲法9条と平和を希求する国民の世論と運動があったからです。このことは、日本の誇りです。

この法案は、平和国家・日本の誇りを台無しにします。世界の日本を見る目を変えます。

米国の無法な戦争に進んで参加すること

この法案の一番の目的は、アメリカがおこなう無法な戦争に、日本がアメリカに求められるままに、集団的自衛権を発動して、他国への武力行使をおこなうことです。

しかし、政府はこのことを隠すために、先制攻撃したアメリカが攻撃されたとき、集団的自衛権発動の条件となる「日本の平和と安全に影響があるかどうか」の判断は、その時の政府がおこなうとし、首相と防衛庁長官の答弁が食い違うなど、審議をすればするほど、国民の反対と疑問が拡大しています。

反対運動の広がりで安倍政権大ピンチ！

18もの大学で職員有志らが戦争法案反対の声明を出すなど、国民の反対運動も日々広がり、安倍内閣を追いつめています。支持率も3割台から4割台と、不支持が急増しています。

自由と平和のための京大有志の会
声明書
戦争は、防衛を名目に始まる。
戦争は、兵器産業に富をもたらす。
戦争は、すぐに制御が効かなくなる。

アジアでも、北朝鮮問題の「6カ国協議」、南シナ海問題での「南シナ海行動宣言」など、軍事的な対応を拡大させない、外交的解決の枠組みをつくる努力がすすんでいます。

軍事的対応優先の安倍自公政権の道でなく、憲法9条を生かした平和の外交こそ、日本がアジアと世界の緊張を緩和する力を発揮する道です。ご一緒に運動を大きく広げ、必ず廃案に…と訴えました。

「戦争法案は、ただちに撤回、廃案を」の運動と世論を一層大きく広げましょう。

世界では、確かに緊張した地域もありますが、全体としては、緊張や紛争を対話と協調で解決していこうとの動きがすすみ、軍事同盟を結ぶ国は少なくなり、対話と協調の外交が主流になっています。

★日本共産党　夕張市委員会へのご連絡・ご相談はお気軽にどうぞ～　Tel/Fax：0123-52-1013　e-mail：jcp.yubari@gmail.com

年金者組合夕張支部 第28回定期大会開催

７月14日、年金者組合夕張支部は南幌温泉を会場に第28回定期大会を開催しました。

大会は議事日程に基づき、議長選出後支部長挨拶に続き夕張市議のくまがい桂子氏と道本部の菊地日出彦氏が来賓挨拶をしました。

また、今大会にメッセージが夕張市長、市議会議長、新日本婦人の会夕張支部、建交労夕張支部から寄せられました。

経過報告・会計報告等の審議後、活動方針・予算・新役員が提案され、全会一致で了承されました。

終了後参加者は会食・入浴そしてカラオケを楽しみました。

くずさんの夕張歴史散歩（31）

土佐の「新聞の葬式」（ふたたび道草を）

今年の２月、「夕張歴史散歩」⑳で、坂本竜馬の甥である坂本直寛が、炭鉱「坑夫同盟」の結成に奔走した事を紹介しました。この中で、直寛が四国土佐の立志学会で、自由民権運動に参加したと書きました。

これを読んだ私の尊敬する友人の一人で歴史研究に詳しいK氏から、「南国の人びとの自由をめざすたくましい息吹が、はるか北国の夕張にまで伝えられて、労働運動の始まり迎えたとは、印象深いことです」と想を述べ、土佐の自由民権運動の一端を送ってくれました。

「新聞の葬式」

『南国土佐における自由民権運動は、住民の幅広い支持を集めていました。沸き立つ民権運動に対し、時の明治政府は集会の禁止や言論の取締りなどで抑えつけようとし、土佐の運動の牙城である「高知新聞」を発行禁止の処分にしました。

すると、高知新聞の面々は「新聞の葬式」と称して、お棺に新聞を詰めて担ぎ出し、政府の弾圧に抗議する事実上のデモ行進を始めました。

葬列は、リーダーの元士族ばかりか導役を僧侶が引き受け、有名料亭の芸妓から車夫までが駆けつけ、たちまち数千人の規模になったといいます。（『日本の百年』巻２「わき立つ民権」より）』と、不屈な土佐の民権運動を「日本の百年」を引いて紹介してくれました。

権力にたいする抵抗に

それにしても「葬式デモ」とはやるもんですね。いつの時代でも、権力に対する抵抗には限りがないし、しかも独創的で愉快です。

これに類したたたかいは、夕張にも見られました。

いわぶち友

いわぶち友「かけある記」
日本共産党福島県委員会常任委員
（参議院比例予定候補）「北海道・東北」

安倍政権追いつめる 国民世論と歴史的たたかい

七月十五日、戦争法案の特別委員会での強行採決を余市町で知りました。この暴挙に怒りを抑えることができませんでした。満身の怒りを込めて訴えた余市と小樽市での緊急街頭宣伝には、同じ思いでたくさんの方が集まってくださり、ともに怒りの声をあげました。夕方の大通公園のデモには沿道の方が次々と列に加わり一二〇〇人を超えました。誰も諦めていない。「成立すれば国民は忘れる」どころか、むしろ怒りは広がっていると心強く感じました。

暑い日が続く中、連日街頭で集会でデモで「戦争法案反対！」と訴える姿にどこでも出会いました。集会には行けないけれど何かしたいと、一日二回三〇分家の前でプラカードを持っていたという男性。親にデモに参加することを反対されたけれど、「声を止めたらダメ。今はやるべき時」と声を上げ続ける若者。胸が熱くなりました。

共同通信加盟各紙と「毎日」新聞が十九日付で報じた戦争法案に関する緊急世論調査では、どちらも内閣支持率が急落し、不支持が支持を大幅に上回りました。国民のたたかいが安倍政権を追いつめています。

十五日は党創立九十三周年の日でした。私にとっては日本共産党の一員となって二〇年という日でもありました。命をかけて反戦平和を貫いてきた先輩たちのたたかいを引き継いで、みなさんと声をあげたことが新たな原点になりました。みなさんとたたかいをさらに広げ、戦争法案を廃案へ、安倍政権を倒すため全力を尽くす決意です。